

二月に幕張メッセで行われた日本最大規模のトランス・パーティー、オーロラサイケデリカ。八千人の動員という数字は、サイケデリック・トランスの日本での現実な定着を確信し、拡がりゆく可能性を示唆した。

その勢いを受けて、トランス・シーンが「リターン・トゥ・ザ・ソース (RTTS)」として再び日本で舞臺に。オーロラサイケデリカでもその圧倒的なまでのパワーで、オーティエンスを幾度元まで引き上げダンスさせたDJツヨシに加え、マーク・アレン、メーディン・ドラマが、このパーティーのメイン



試み、新機軸を垣間見せてくれる。

ここで来日アーティストの簡単なプロフィールを記しておこう。

RTTSのレギュラーDJで、イギリスでは絶大な支持を集めているマーク・アレン。彼がサイケデリック・トランスに出会ったのは初めてのゴアへの旅行中だったという。ロンドンに帰国した後、再びインドを訪れ、DJや音楽活動をしていくことを決意する。93年にMIND FIELDを結成、翌年にはライブを行うとともにレコードをリリースした。そしてRTTSへの参加がこのパーティーの拡大とともに、トランス・シーンでの確固たる位置を築いていった。昨年9月にはアメリカ・ネバダ砂漠で開催されたマッドなフェスティバル「バーニングマン」にも出演している。現在はORRICKというプロジェクト名でアルバムを制作中だ。

メーディン・ドラマはクリス・デッカー、アンディ・ギャスリー、クリスボの3人からなる。彼らの音楽は、地球の鼓動、サイケデリック・トランス、パーカッション、チャンティングなどの要素を絶妙にブレンドしたものだ。最先端のデジタル・サウンドに地球の音をフラスさせることによって、未知の音の世界を創造していると言っている。最

Return to the Source

RAINBOW 2000 PRESENTS

Return To The Source Party SCHEDULE

5/24 Sat Mt.FUJI
Info-RAINBOW office ☎03-5467-4845
RAINBOW ONLINE : <http://www.cyberoz.net/rainbow2000>



日本のテクノシーンを疾走し、どんどん吸引力を増殖させるRAINBOW 2000。そして5月、次なるビッグフェスティバル「リターン・トゥ・ザ・ソース」で新たなアプローチを提示する。

インパクトだ。RTTSは95年、ツヨシとオーガナイザーであるクリス・デッカーのアイデアから発せし、ノース・ロンドンにある「ロケッツ」というクラブでスタートした。そのコンセプトとは、単なるクラブのパーティーには留まらなない。原始回帰とサイケデリック・トランスの融合を空間の中に結実させることだ。現在ではサウス・ロンドンにあるブリクストンの「ブリッジ」というクラブで毎月定期的に開催されている。最もコアであり、かつ先鋭的なパーティーで、常に二千人以上のダンス・ビープルを集めているという。スピリチュアルなバイブレーションを体験するための総合的なスペースを演出するRTTS。デコレーションはもちろんのこと、シンボリックなオブジェにいたるまで、トータルなコンセプトに貫かれている。時にはメーディン・ドラマなどのセッションを行うなど、様々な可能性を

近レコーディングを終えたニューアルバム「SUPERNA TURE」はイギリスで5月にリリースが予定されている。そしてDJツヨシ。現在世界で最も注目を集めている日本人アーティストであり、まさにグローバルなトランス・シーンのメインアクターと言っても過言ではないだろう。自身のバンドPRANAでも活動を続け、レーベル「MATSURI PRODUCTION」を設立。自らのサイケデリック・トランスにおける哲学を追求している。この3月に、ミックスペルバム「SHAMANIC TRANCE」をリリースした。

イギリス国内だけでなく、ヨーロッパ各地やアメリカへもツアーで進出しているRTTS。今回はデコレーションチームも来日する。まさにロンドンのスタイルがそのまま日本に移動する画期的なパーティーになることは間違いない。RTTSが目指す原始と先進という両極端のベクトルの融合。その体験が日本のスピリチュアルな要素である富士で行われようとしている。これはテクノシーンを越えた大きな「事件」となりえるかもしれない。カオスが生まれるのか、ロゴスを見つめられるのか。はたまた富士がテクノの新しい聖地となるのか。その答えは5月に我々の前に現れる。

日比谷野音で行なわれた大規模なアンビエント・パーティー「SOFT CITY」を終えた直後、僕たちJUMBENTファミリーは、サンフランシスコへと旅立った。「SOFT CITY」に出演したシヨナ・シャープ(Spacetime Continuum)とパーティーに参加する計画はあったものの、久々のオフ。みんな超チルアウトな気分。で異国の地を踏んだ。パイクレーではデッドヘッズが相も変わらずサイバー・トリップングー人口の1/6はゲイ・ビートル1/6はエイリアン、?はエイリアン。デジタルカルチャーは超ハイレベルだしビーチのセンスはともサイケデリック!これらのバランスが見事にとれたハッピーな街がサンフランシスコ。僕らが滞在したエリアはウエアハウスがたちまちアメイジング・タウン。エッジ&エナジーがとも強くSPACETIME CONTINUUM VELOCETTE MESHEEN等のアーティストもここが出发点。音楽だけではなく多くのファッションやアートのムーブメントも生まれている。その中でもひととき異彩を放つファッション・ブランドを紹介しよう。

サウンド・アート&ファッションの遭遇をトータルビジョンで発信したネオテリック。

3月8日、渋谷オンエア・ネスで開かれたネオテリックは東京とサンフランシスコが呼吸したかのようなパーティーだった。出演したアーティストはMESHEEN、SHIN KAY NAKAYAMA



MESHEEN (ケブ・ハート)。グループのあるライブプレイを展開した

ネオテリックの新情報は <http://Web.Actwin.com/WDG/10kHz/> で聞かれる

思慮しない。

global linkage

アーティストがリンクする街は、デジタルとオーガニックをも融合する。

Text by KAY NAKAYAMA

「NIKE」フオログラム・パーティーのデザインなど、彼等のクリエイティブ・ネットワークには驚かされる。

市街から少し離れると風力発電のプロペラが広大な丘陵を埋め尽くすエリアがある。その風景は都市と大自然、デジタルとオーガニックが最も美しく融合するこの街を象徴するランド・マーク、サイバー・オーガニックと60年代から続くヒッピー・カルチャーを共存させる懐の深さがベイエリアにはある。このプロペラをモチーフに創られた彼等のシンボル・マークは適度な重さのメッセージを放ち、それを身につけると不思議と体が軽くなりとても行動的な気分になる。僕は音楽とファッションは日常のなかに「スピード感」と「やすらぎ」を同時に与えることができる

希有なサブジャンクと考えている。彼らのデザインがまさにそうであるように。そしてうれいことに彼等は僕の曲を聞きながら制作に励んでいるとのこと。そんなことがきっかけで彼らと数日間行動を共にしていたらSOMETHING WONDERFULのアルバムのアートワークを手掛けてくれるという話まで発展した。広大な大地を有するこの地域は人と人の距離(スペース)を適正なものに導き、だからベイエリアのアーティスト達とはともいえないリンクしている。その中で自然発生的にパーティーが始まりどこからともなく人が集まるアートナイトの理想郷。エイリアンが住んでいても不思議じゃない。

1人の商業主義的なレールには乗りたくいが彼等自身もそれを望んでいない。けれどケネディ・シャープ、オビタルの作品をアーティストとしての制作やなんと今年発売される新作



DEEP~がアート・ワークを手掛けた「Area EZ」(VAP/CHILL SCAPE)。KAY NAKAYAMAが出演するパーティー「SPEED STAR」4/19 SAT VITAMIN-Qで行なわれる